



# 法の光 (法光山 妙勝寺 通信)

No.267

2022年(令和4年) 3月 1日発行

文責 大岩 清人

— 除夜の鐘 —

妙勝寺ホームページ

<http://www.myosyoji.net/>

又は「法光山 妙勝寺」で検索

## 春の彼岸法要のご案内

日の暮れが遅くなり、陽射しも暖かさを感じるようになってきました。宍粟の山間部は例年になく雪が多く、一昔前に戻ったような冬だったのです。兵庫県宍粟市に“なだれ注意報”が天気予報で出ることがあります。鳥取県との県境の山間部や峠道です。ご安心下さい。宍粟南部は雪はありません。北部に行くと道路の横に除雪された雪が壁となっているところがあります。暖かくなるとその雪の壁が道路に崩れ落ちることがあります。雪は堅くなっているので塊を避けるべきです。雪の多い地域は想定外のことがあります。ご注意下さい。



弥生3月を迎え、お彼岸月となりました。お正月にお供えしたお墓の櫛は緑を残していますが、新しいお花に替えてあげて下さい。

お彼岸は3月18日が彼岸の入り、21日が中日、24日が結岸(彼岸明け)です。

結岸の3月24日(木)13:00より妙勝寺・春彼岸法要を執り行います。

オミクロン型コロナが広がっていますが、これまで同様、対策(空気の入れ換え・消毒液・マスクをしての読経)をして執り行います。

どのお医者さんに聞いても「風邪と同じになっていますよ。」と仰います。TVでことさらに不安を駆り立てていると評する専門家が多くなりました。とは言え、かからないことに越したことはありません。

春の暖かさを感じ生きる喜びを大切に、彼岸(向こう岸＝死の世界)に旅立たれた方に、塔婆を建立し供養をし思い出してあげて下さい。

塔婆供養は同封の申し込みハガキにてお申し込み下さい。

お詫びと訂正 「妙勝寺さん。今年の恵方は北北西ですね。」

檀家さんから指摘の電話を受けました。

お正月にお札とお札の祀り方のプリントを同封しました。その中の「②奉信敬  
としとく 年徳玉女大善神のお札・・居間にその年の恵方えほう（令和四年の恵方は南南  
東の方角）に当たる所に貼ります。」とお知らせしましたが、正しくは北北西  
です。訂正しお詫び致します。連絡ありがとうございました。

## 冬は身支度の季節

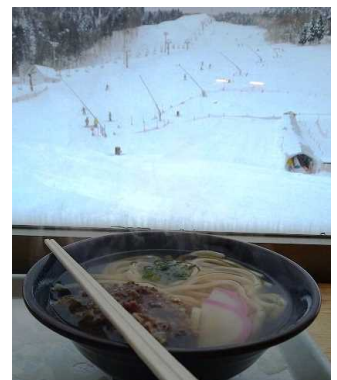
2月中旬、宍粟の山間部の様子を見に行った。道の両側には久しぶりに多量の雪が積み上がっていた。除雪の雪を道路脇にかき寄せているせいもある。知り合いのおじさんが自宅から国道まで道をつけていた。「今年は大変やね。」「ここまで降るのは久しぶりじゃ。雪の度に道をつけるのは一苦労じゃ。」「元気そうやけど何歳になられたんですか?」「もうすぐ93じゃ。」奥さんは7年ほど前に旅立たれて、一人大きな家に住んでおられる。時々甘い物を差し入れしてあげる。「いつもすまんな〜」とお札に笑顔を返して頂く。

この屋敷には広い庭がある。綺麗なドウダンツツジは雪をかぶり、大根や白菜の畑は厚い雪の下。雪のある間はジューツとしていられない。その昔はむしろ 箆を編んだり、草鞋をなったり、牛の世話をして雪解けを待ったに違いない。熊も冬眠して体力を温存したが、人間も同じように体力を温存していた。自然のサイクルの中でみんな生きていた。

## 「そうだ。スキーに行こう！」

少し時間が出来たので千種スキー場へ行ってみよう。積雪250cm。晴れ。

千種の街を過ぎる頃から両側に雪が多くなり、西河内集落へ入ると屋根には1にしごうち 葺を超す雪。集落を抜けスキー場への道は北海道を思わせる景色。駐車場に着くと第1・第2駐車場は満車。第3に駐め着替えてゲレンデへ。まずは宍粟牛うどんでお昼の腹ごしらえ。リフト券はシルバー割引購入。リフトに乗って山頂へ。山々の美しさに見とれていると（展望レストランからゲレンデ）到着。慎重に滑り出すとすぐにいつもの感覚がよみがえってくる。「まだいけるな〜」と思いながら70歳スキーヤーは滑った。寒さに閉じこもっていないで外に出て正解。1時間でスキーに来れる距離は有り難い。



## 一枚の手紙

年末に掃除をしてると一枚の紙が出てきた。

「〇〇様より皆様への言葉」と題されていた。同級生で共に遊び・学んだ仲であるが早く旅立った。彼が亡くなって早9年を迎えた。彼から「おれの最期は大岩にして欲しい」と頼まれ葬儀を執り行った。一枚の紙は葬儀後、司会が読み上げ参列者に配られた物だ。(法の光166号に記載記事)

「・・時代時代に、多くの仲間や先輩に見守られ、そして最後まであきらめずに生きてきました。『社会のために生きるんだ』と自分に言い聞かせました。私の子供は日本にも中国にも沢山います。(退職後、中国の大学で教えた)

百年以上長生きしてほしいものです。私は仕事を通じて多くの子供を『社会に残せたこと』を誇りに思っています。また、私を支えてくれ自由に生かしてくれた家族に感謝いたします。ありがとうございます。最後に私のお墓の前で泣かないで下さい。千の風になって今でも世界を飛び回っていますので・・」

またね。SEE YOU 再会(サイツェン)

彼の顔が蘇り、葬儀のことが思い出され目頭が熱くなった。癌闘病中に自らの最期を感じ文章を書いたわけだ。生きたいという思いと残された時間が少ないことを意識する辛い時間だったに違いない。

私にどれだけの時間が残されているかわからないが、悔いのない生き方をして霊山浄土で再会したいと思った。

## 中国と言えば・・

冬季オリンピック。日本選手の活躍に心躍らせる反面、この大会運営は茶番が多かった。スキージャンプのスーツ規程違反問題に始まり、ショートトラックのあからさまな中国寄りの判定。バツハ会長と中国女子テニスプレイヤーの関係。極めつけは女子フィギアのドーピング問題。

スポーツにとってルールは守るべき基本である。それがオリンピック主催者の手によって崩されていくのを見て、残念を通り越して「アホらし」。

北京開催だからこうなったのか??

友が中国で教鞭をとっていた10年前とは大きく変化したようだ。中国共産党の専制支配が強くなり、経済大国となってオリンピックをも支配下に置いた。バツハ会長は中国の言いなりとなった。習近平は国力を世界にアピールする場とした。しかし、そのあからさまな表現は中国への評価と関心より不信感を抱くものとなった。中国5000年の歴史の重みはどうなっているのだろうか。

伊和神社(播磨一宮)の鳥居前で石材屋を営む教え子がいる。時々お墓の仕事をしてもらうことがある。忙しくしているが、時間がある時はうざうざ話をする。「僕は伊和神社の氏子として育って、祭を通して学んだことが基本です。」と祭の準備やしきたりが人間関係を作り上げてきた事を話してくれた。

「お茶を出す順番やお茶を飲む作法(長が口をつけたら飲める)など、地域社会で人間関係を大切に作るしきたりなんですね。それが今の子は礼儀がわからんですね。お茶が来たらずぐに飲もうとする。口の利き方がなってないですもん。」

礼儀の基本は家庭教育にある。子供が礼儀知らずと言うことはその家のしつけに原因があるのか・・・?

お参りに行ってその家の子供に会う。「こんにちわ」と挨拶してくれる事もあるが、無言で通り過ぎることもある。特に青年層に多い。反抗期かな・・・と試してみたりするが、チョット違うな～。外面と内面を使い分ける年だけにまだ子供なんだと思うようにしている。

#### オミクロン拡大

関東にいる従兄弟がオミクロン型コロナに感染したと連絡が入った。電話で容体を聞いた。「女房が肺炎を起こして入院をした。重症化したようでその治療に当たってくれている。しかし、会いに行けないので状況がわかりかねる。僕も同時に陽性反応が出たが少し咳と熱が出たけれど大丈夫だった。」夫婦とも定年を迎えキャンピングカーを買って日本全国を旅して余生を楽しんでいた。「今年の春に山崎を訪ねて四国へ行こうと思っていたがダメになった。一人になってどうもいかん。話し相手が居ないし、一人で生活をする大変さを味わっているわ。」「感染経路はわかっているの?」「いやわからへん。保健所も追跡調査をしないわ。あまりに多くてそれどころやないらしい。」

奥さんはコロナと闘い、主人は奥さんへの思いと毎日の生活に闘っている。「大丈夫や。奥さんのことやから回復する。元気になってくれるよ。」と電話を切った。一週間後、「回復している。重症から脱出や。今回のことで色々考えさせられたわ。最後に行き着くところは佛さん・ご先祖に手を合わせることだったわ。」

宍粟でも無症状感染者が増えている。

#### 今月の日程

3月24日(木) 13:00より 春彼岸法要 本堂にて